



DOCOMO TEAM DANDELION RACING Team Release

予選レポート

2022/4/9 Rd-1 FUJI Speedway

天候：晴れ 気温：17℃ 出走台数：21台

2022 シーズン全日本スーパーフォーミュラ選手権は、全7大会10戦と、昨年より3戦増加して開催される。その開幕戦第1大会の富士スピードウェイでは、土曜日にRd1、日曜日にRd2の2レース制。シーズン開幕でいきなりの2連戦となるため、ドライバーもチームも、好成績で今後の良い流れを作りたいところ。

予選方式も一新され、ノックアウト予選はQ1とQ2の2回のみ。

これまで以上にスピーディーな展開で、予選の緊迫感は否応なく高まるだろう。

A組 2021年度ルーキーオブザイヤー獲得の天津選手は、フロントタイヤの温まりが遅いと考え、開始すぐにフロントタイヤのみ新品を履いてコースイン。すぐにピットインし、リアタイヤを新品に換えてアタックへ。第1セクター、第2セクターと好調にタイムを刻むが、第3セクターでタイムを伸ばせず、5番手で第2予選へ。

B組 牧野選手は、開始すぐにユーズドタイヤを履いてコースイン。車両の感触を掴み、予選残り7分のタイミングでニュータイヤを履いてコースイン。慎重にタイヤを温め、3周目にアタックを行う。昨日からの好調を維持し、第2セクタートップタイムを刻むが、第3セクターでバランスが悪く失速。6番手で第2予選へ進む。

12台で争われる第2予選。牧野選手は、セットアップに若干の修正を加え、3週のウォームアップの後4周目にアタックラップへ、第2セクタートップのタイムを刻むが、第3セクターのバランスは好転せず7位となった。

天津選手も、セットアップを修正。コースオープンと同時にコースインしアタックへ。路面の変化にセットアップを合わせきれず10位で予選を終えた。

5：牧野任祐選手 予選7位 (第1予選B組6位 第2予選7位) HONDA 勢4位

昨日のフリー走行が非常に良かったのですが、そこからの上げ幅が小さく、特に第3セクターのタイムは想定に届きませんでした。予選結果ではトップとのタイム差が結構ありますが、まずは今日の決勝に気持ちを切り替えて、チームとしっかり戦略を練って臨みます。

6：天津弘樹選手 予選10位 (第1予選A組5位 第2予選10位) HONDA 勢5位

牧野選手同様、昨日テストの調子はとても良く、自信を持って予選に臨みました。

第1予選の感触から、タイムアップすべく第2予選に向けてセットアップを変えましたが、コンディションの変化に合わせることが出来ませんでした。

決勝に向けては、ドライビングを含めセットアップを見直して、上位フィニッシュで終わりたいと思います。



DOCOMO TEAM DANDELION RACING

Team Release

決勝レポート

2022/4/9 Rd-1 FUJI Speedway

天候：晴れ 気温：23℃ 出走台数：21台

土曜日に Rd1、日曜日に Rd2、の 2 レース制で開催される開幕戦第 1 大会富士スピードウェイ。緊迫の予選終了から息つく暇なく、決勝レースが行われる。

決勝レースは昨年同様、給油禁止、タイヤ交換義務ありというルールで行われる。

気温 23 度、路面温度も 30 度を超え、更にメインストレート上は強い追い風の中迎えた開幕戦のスタート。ポールポジションの笹原選手がまさかのエンジントール、100R の接触でスローダウンする車両など、混乱のオープニングラップ。10 番手スタートから 7 番手までジャンプアップしていた大津選手も、ダンロップコーナーで佐藤選手の後部に接触してしまう。このことで佐藤選手はスピン。大津選手はドライブスルーペナルティーを科されてしまい、18 番手まで順位を下げることになった。

牧野選手は一つ順位を上げて 6 番手を走行。ピットストップウィンドウが開くと同時にピットインしタイヤを交換。ファステストラップを記録する速さで周回を重ねた。先行車へのアンダーカットを成功させた牧野選手だったが、レース後半はタイヤをキープする守りの走行となり、6 位でフィニッシュ。5 ポイントを得た。

大津選手は 18 番手から 16 位までポジションを上げたところでレースを終えた。

5：牧野任祐 6 位 HONDA 勢 2 位

スタートでは多少混乱がありましたが、一つ順位を上げることが出来ました。ピットインのタイミングや戦略も良く、タイヤ交換後は前を走る野尻選手の動向を見ながらペースを調整していました。しかし徐々に離される展開で、後半はタイヤもつらく、6 位キープのレースとなってしまいました。明日は第 2 戦としてもう一度予選と決勝がありますから、今日の結果を検証し、明日のレースで挽回したいと思います。

6：大津弘樹選手 16 位 HONDA 勢 7 位

スタートはとてもよくて、牧野選手と争いながら 7 番手まで順位を上げていたのですが、100R では集団が詰まっていて、自分が思うよりもかなりペースが落ちており、前を走る佐藤選手に追突する形になってしまい、ドライブスルーペナルティーとなってしまいました。タイヤ交換後もペースを上げて少しでも順位を上げたかったのですが、特にリアタイヤの摩耗が多くなってしまい、第 3 セクターでのタイムロスが大きく 16 位で終えるレースになってしまいました。第 3 セクターのバランスが課題ですから、明日のレースに向けてチームとよく相談し、気持ちも切り替えて臨みます。